

『流浪放浪、癒し旅』

足が

勝手に動き出しました

けた！

今は

見つ

僕の方が 気まぐれ

を

である

猫

ロキヨ

猫

キヨ ロ

は て

警戒中

僕 探し

を

大好きな君を想う

今に 驚かして

から

か

っ

て

や

ろ

う

かな

「痛い痛い痛い！」

地面

くん が

足を押し返す

「オイラも！」

ついでに

雑草くんも

ごめんよと下に

近づいて、近づいて

足を軽くする

靴を脱いで、優しく歩く

「ありがとう」と地面くん

「気をつけてよね！」と雑草くん

ありがとう！

よし、後ろで

ちょっと一休み

君がいるから、僕はいる

川だ 無の 触るとクリオネ どこまでも
川が 流れに 嗅ぐとミント色 どこまでも
流れ つられて なめると蜂蜜 流れてゆけ
てる 僕の心も 歌えばロマンス 続いてゆけ
透明になる 祈れば天界 切り開け
潜ればカンブリア どこまでも
どこまでも
君の隣で考えながら歩いていた

カララン カララン 聞こえて
音が もう
鐘の 帰る時間
もう少し けれど
あつ、 青い鳥
途端に鐘は壊れ
音を失い
時の制約を打ち破り
僕の焦りは鳥の声に
戻るか？
いいや
まだまだ浪浪

君と僕には同じ穴が空いている

不思議な、不思議なこの出逢い
巡り巡りて次は誰に
僕にも君にもわかりません
わからず不思議に、傷を癒します。

美

追いかけていよう
 妖精が飛んでいく
 捕まえるの
 僕はここに
 触れよう
 だっ
 美しいから
 綺麗で
 素的で

流浪放浪、癒し旅

2021 年 5 月 19 日 執筆

著 者 やさかしい
八 坂 零

掲 載 芸術の星座
